



伊達政宗像

長崎高教組

定通部だより

2012年9月10日

第3号

発行責任者 今泉 宏

ホームページ <http://nagasaki-kokyoso.org>
メールアドレス info@nagasaki-kokyoso.org

定通教育全国学習 交流集会IN仙台

参加者 濱本功二（大村定）
森 文明（鳴滝夜）
今泉 宏（鳴滝夜）
生徒 宮里 遙（鳴滝夜）
保護者 宮里 寿（鳴滝夜）

2012 定通教育全国学習交流集会in仙台

2012年7月27日(金)～28(土) フォレスト仙台
テーマ「学ぶ 働く つながる 震災復興編」～高校生と修学権～

講演「東日本震災と復興とこれから」

丹波史紀さん（福島大学准教授、反貧困ネットワークふくしま共同代表）
（講演の主な内容）

東日本大震災は、阪神淡路大震災との違い、仕事も家も生活基盤がすべてなくなったことが大きな特徴である。福島の高校は県内数カ所に分かれてのサテライト形式で授業をしていたが、4月から1カ所に集約され、寮と称する普通の旅館から通学を余儀なくされている生徒がいる。しかも、旅館の食事が7時からのため、6時台に登校する生徒は、朝食が食べられなかったり、昼食の弁当がなかったりといろんな問題点が出ている。また、首都圏に避難した小学生が、リレーチームが負けた際、「福島からおまえがきたから負けた」と言われ、いじめの原因にもなっている。40年近く首都圏に電力を供給してきたのにどうして子どもがいじめに合わないといけないのかという親の嘆きが聞こえてくる。さらに、就学援助を受ける児童生徒の割合が10%くらいだったのが70%近くに急増。深刻な問題である。

浪江町では復興計画を「一人一人の暮らしの再建」を目指すことに加え、「ふるさと浪江を再生する ～受け継いだ責任、引き継ぐ責任～」を掲げている。子どもは浪江に帰りたと思っている。住める町になって欲しいと願っている。8割の子どもが浪江の友達と会えなくなったことを一番の困りごととしてあげる。子どもたちが「きれいで安全な町」「自然豊かなまち」「明るく賑わいのあるまち」という町への愛着をもち、震災前の浪江に戻って欲しいと感じている。子どもが大人につけつけた要求を町の復興目標としているのが印象的だ。

リレートーク（生徒や先生による各県からの報告）

大阪府春日丘高校の生徒会では震災の翌日から「まず何かをしなきゃ」ということで生徒会が集まり、募金活動を始めたことが報告されました。また、生徒会で写真入りのメッセージを宮城県東松島高校に送ったことで、生徒会同士の交流が始まり、今回東松島高校を訪問して、マスコミで報道されない部分を多く知ることができたことは大変有意義だったと述べました。さらに交流活動を通じて自分を成長することができたということが生徒自身から語られました。

地元宮城県の生徒からは、次のような発言がありました。地震と津波の被害で、家族がバラバラに暮らすことになった。「大丈夫？」と聞かれたら無理して「大丈夫」と答え、辛い日々を過ごしたという話を聞くことができました。



講演 丹波史紀さん



リレートーク
春日丘高校生徒会

高校生フォーラム



高校生フォーラム

「高校生フォーラム」では本県の高校生も含め9人の高校生がパネラーとして参加。「学校をやめる生徒がいること」「生徒会活動」「学費のこと」「先生への気持ち」のテーマ別に高校生が自分の考えを語りました。その中で、生活保護を受けている生徒がアルバイトでお金を貯めて進学をしたいが、働いた分だけ生活保護の金額が減らされるためお金が貯まらない現状を語りました。それは「生活保護家庭は進学するなどということか」という怒りに近い声として会場に響きました。

特別報告 平舘英明さん（フリージャーナリスト）

福島からの特別報告では、除染が進んでいないのに、学校はプールや運動会を再開するなど無理に復興をアピールしていることが語られ、すでに福島第1原発事故の問題が風化し始めていることを指摘しました。

パネルディスカッション

4人のパネラーを中心に「震災と修学保障」というタイトルで話が進みましたが、中でもサポートステーションの話が大いに盛り上がりを見せました。サポステの職員を学校に定期的に招いて、生徒の就業に役立っている実践や特別支援を必要とする生徒の就労体験（中間就労）による生徒の成長が各県から報告されました。

最後に

仙台の町に出ると、地震や津波があったことを疑うほど、町は活気あふれています。しかし、周辺の町、特に海岸沿いの町に行くとまだ手つかずの状態を目にします。東北、宮城、福島と一言でまとめることはできず、場所によって全く景色が異なります。今回仙台でこの学習会を開いたことは、現地の様子に直接接する機会を得たという意味からも意義は大きいと感じて帰ってきました。（今）



パネルディスカッション

保護者の感想（宮里 寿）

初めての参加でしたが、いろんなことが理解でき、大変意味のあるものとなりました。

印象に残ったことは、閉校してしまったり、県からの予算が無くなったりといった現状があるということ、そして高教組や保護者の会の方々が、子どもたちの為に熱い気持ちで活動されてるということでした。

実際、先生や保護者の方々の働きかけで「子どもたちのよりよい環境」が改善され、存続されていることも知りました。定時制は普通に存在すると思ってましたので驚きました。私達親子も定時制がなかったら、どうなっていたことか…

娘は中学時代、いじめが原因で教室に行けなくなりました。幸いなことに娘の通う中学校は、週2日、スクールカウンセラーの先生がおられ、更にはカウンセラー室のとなりにより部屋設けられており、大変恵まれた環境でした。しかし、「義務教育」に対し疑問もわきました。設けられた部屋には担任も居なければ授業があるわけでもない。あくまでも「一時避難所」で「自主学习」という現実です。娘はそんな環境で3年間を過ごしました。

進路はどうしたらいいのか悩み、不安な毎日でしたが、娘を受け入れて下さる高校があってほっとしました。心より感謝しております。

これも先生方が熱意を持って活動されているからこそだということ、今回の参加で確信いたしました。

心に問題を抱える子ども達が急増している現状があります。他にもいろんな事情の方々もおられるとおもいますので今後、定時制高校は更に必要な存在になってくると思います。これからも、更なるご活躍を祈っております。

生徒の感想（宮里 遙）

参加は初めてで、すごく緊張しました。現地に着くと思いの他先生方の参加が多くびっくりしました。

夕食交流会では全国の先生方や保護者の方々からの話を聞くことができ、貴重な体験となりました。「県から補助金がなくなり、閉校になる学校が増えている」という話を聞き、そのような現状を初めて知り、不安な気持ちになりました。今の時代、鳴滝高校のような定時制の学校が増えるべきなのに、減っているということがあってはいけないのではないかと感じました。

今回、一番印象に残ったのは高校生フォーラムです。初めて参加し、すごく刺激を受けました。生の高校生の声、他県の定時制の高校生の声を聞くことができ、今まで知らなかった世界を知ることができました。定時制に通っている私たちだからこそ理解しあえることもありました。周りの人たちの話を聞いていて、友達に伝えたいことや生徒会役員である自分にできることを考えるきっかけにもなりました。その中で、震災にあった宮城の高校生が「勉強したくて進学のお金を貯めるためにアルバイトをしているのに、生活保護で支給されるお金が減らされている」という発言をしました。「こんな矛盾あっていいの。」勉強したいのに勉強できない現状に疑問を抱きました。

今回の集会で得たことは、「希望をなくしてはいけない」ということ、「思ったことは行動に移す」ということです。震災後の厳しい現実や学校、生徒が抱えている問題にはやるべきことはまだまだたくさんあります。私自身これから少しずつでも行動に移すことができたらいいなと思いました。集会で学んだ「絆を希望に」の言葉のもと、私一人からでも行動し思いを伝えていきたいと思えます。素晴らしい学習の場に参加でき、多くのことを吸収できてとても良かったです。また是非参加したいです。